歴史総合-DX

**1872年（明治5）　明治の国造り**

維新政府は国家スローガンに「殖産興業」と「富国強兵」を掲げ、前4月の国民に苗字（名前）を付した改正戸籍法に連動して戸籍簿編成（壬申戸籍）を開始した。函館・横浜・神戸・新潟・長崎の5つの開港場が海外に開かれたが、港にはいまだ活気はなく経済は沈滞していたが、4月には東京～大阪間に電信が開通、5月には待望の鉄道が新橋～横浜間で開業し、イギリス製蒸気機関車が煙をあげ汽笛を鳴らして運行され、文明開化を感じさせたが、その同月には皇居となっていた東京城の元会津藩の添え屋敷で火災が発生、火災はみるまに拡大し、銀座（旧の銀座）さらには築地居留地にまで及ぶ大火災（銀座大火）となり、天皇も仮皇居の赤坂離宮に引っ越しされる事態となり、耐火煉瓦による「不燃都市」の街づくりが国あげての課題となった。8 月には「学制」が発布され、新しい教育制度が始まり、 10月には群馬県の富岡にフランスの指導を受けた富岡製糸場（世界遺産）が操業を開始、安価な生糸を大量生産し、海外に輸出して外貨を稼ぐ殖産興業の模範工場をめざすこととなった。11月には「改暦」を国民に知らせ、従来の太陰暦（旧暦）を欧米の太陽暦（西洋暦） に改め、明治5年（1872）11月3日が明治6年（1873）1 月1日の正月となった。